

令和2年度 宮崎県立日向工業高等学校 学校関係者評価

4段階評価 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

重点目標について

- 1 人間力育成〈職員自ら「主体的に学び・教える」、主体性を発揮させる〉
(1)生徒指導体制の確立 (2)人権・道徳・特別支援教育の充実 (3)教育環境の整備
- 2 学力養成・キャリア教育〈生徒自ら「主体的な学びから考え、判断し行動する」主体性を育てる〉
(1)教育課程の工夫・改善 (2)授業改善と学力養成 (3)キャリア教育の充実
- 3 信頼される学校づくり〈地域の方の本校に対するイメージの悪さを払拭し、受験者の志願者数を満たす〉
(1)広報活動の充実と学校公開 (2)危機管理の推進と適切な対応 (3)防災教育の推進
- 4 働き方改革の推進〈教育の質向上を目指して、PDCAサイクルを実践を強化する学校〉
(1)マイナーチェンジによる改善

1 人間力育成

(1) 生徒指導体制の確立 (2) 人権・道徳・特別支援教育の充実 (3) 教育環境の整備

(令和2年度)

目標	努力事項（評価指標）	学校自己評価コメント	自己評定	学校関係者評価	理由	
(1)	教務	全校朝礼の運用を通して、基本力の育成を図る。	コロナウイルス感染症対策のため、全校朝礼が実施出来なかった	-	3	次年度に期待します。 生徒指導は、社会に出て行くうえで、重要だと思えます。今後とも頑張ってください。 少しずつ高評価になっている。
	生指	「いつでもどこでも」の意識で生徒への声かけを行う。	生徒への声掛けは容儀面に対しての注意が多くなるが、頭ごなしの指導にならないよう心掛けた。	3		
		問題行動を起こさせない常時指導の徹底。問題行動発生10件以内、特別指導者0名、退学者0名を目指す。	例年と比べて増加した。コロナウイルス感染症対策による臨時休校のため、年度初めの指導が徹底できなかったり、暇な生徒達が集まって問題行動に至ったりと、コロナ禍による休業も影響していると思われる。	2		
		校内外において自転車盗難0件を目指す。校内での自転車施錠点検を不定期に実施し、施錠をする習慣を徹底して身に付けさせ、未施錠者0名を目指し、盗難防止モデル校を再返上する。	自転車盗難0件を目標に担任団と共に点検を強化し、100%の施錠率に近づけることができた。	4		
		服頭指導警告書（ブルーカード・イエローカード）を活用した気付きの指導を行う。服装頭髪違反者0名を目指す。	イエローカード指導は、昨年度より減少した。今後も0名を目指して指導していきたい。	3		
	進路	生徒指導部、学年団と連携し「常時指導」徹底に努める。	朝の駐輪・施錠指導は、副担任間で連携した指導が実施できた。登校後の健康観察時に常時指導も個別に実施できた。	3		
		学校行事の中で、基本力の育成に務める。	学校行事を例年通り実施できていないが、実施した行事自体は大きな問題なく実施されていた。	3		
	保体	毎朝の健康観察の徹底を図り、生徒の健康状態の把握に努める。	全職員の協力により、毎朝の健康観察の実施や健康診断を実施することができ、生徒の健康状態の把握をすることができた。	3		
		健康診断・事後措置の徹底を図る。 健康相談の実施（水泳前・体育大会前・修学旅行前・長距離走前）				
	環美	清掃の始まりと終わりの挨拶を行う。	清掃開始の挨拶を行うことで、指示が行き届き、遅れて行く生徒も少なくなった。清掃も授業と同様の指導をお願いしたい。	3		
		清掃時の移動時間を5分以内とする。	始まりと終わりの挨拶が定着しつつあり、引き続き取り組む。清掃の集合・生徒の動きは、監督職員の意識によることが多い。我々職員が清掃活動の意識を高める必要がある。			
		すべてのゴミ持ち帰りの指導をする。	持ってきたゴミは、持ち帰り指導を行っているが、管理ができていないため多少のゴミが出る。自分のゴミはバッグの中に入れるように指導する。			
		積極的な校内ゴミ拾いを行い、ゴミが落ちていない状態にする。	校内でのマナーは良いが、校外でのマナー指導まで実施できていない。			
		菓子類の持ち込み禁止の指導をする。（ガムの吐き捨て防止） 美化委員による学期一回の校外ゴミ拾いを行う。	飴やガムの包み紙・菓子パン袋・コンビニのレジ袋が目立つので、不要なものを持ち込み禁止を呼びかける。 毎期末考査最終日に美化委員会による校内外の清掃活動を行った。			
	渉団	図書館は、公共の場である認識をさせる。ルールやマナーを提示し、生徒が自ら守れるように育てる。	生徒の利用マナーは良好であった。	3		
(1)	教相	いじめ・悩みアンケート（年3回）の実施	定期的を実施することができた。	3	2年生の自己評価の1が気になります。3年生での頑張りにも期待をします。 2年生でうまくいかななくても、3年生で落ち着いていようと思えます。	
		いじめ不登校対策委員会（各学期1回）	定期的を実施することができた。	3		
		担任と連携した家庭訪問や面談の実施	必要に応じて実施できた。	3		
		専門機関との連携	必要に応じて実施できた。	2		
	1年	集会時のきまりをしっかりと遵守させ、型を身に付けさせる。	集会が例年に比べ減ったが、年度当初に担任団一丸となって、指導の徹底ができたことで、生徒の集会時の姿勢は良好であった。	3		
		週末の終礼で副委員長主導のもと、生徒手帳へ記入時間を設け、1週間後の見直しを持って行動させる。	副委員長主導では、実施できなかったが、生徒手帳の活用は図れた。	2		
		部活動の意義を伝え、加入率85%以上の入部を勧める。	今年度の全体の加入率は75.3%で、前年度よりも10%ほど下がっている。原因としては、感染症の影響で一年生が部活動に関われる機会が減ってしまったこと。今後はクラス担任や授業等でアナウンスするだけでなく、動画での紹介や日替わりで部活動紹介など、案を出し合い学校全体で部活に関われる機会を増やし、加入率を向上させていきたい。	2		
	2年	服頭指導を通して服装を自ら整える意識を高める。また、様々な場面で互いに挨拶をし、言葉遣いに気をつける習慣を身につけさせる。	服頭指導、挨拶など日常の行動について、クラス任せになり、学年で統一した指導の徹底はできなかった。	2		
		インターンシップや修学旅行など校外の活動においても、5分前行動を徹底させる。また、普段の授業等も予鈴の時に委員長による声かけを実施しベル着を徹底させる。	校外活動は実施できなかった。普段の授業におけるベル着徹底は、教科によってばらつきがあった。	2		
		先の見直しを持って行動させるため、副委員長の主導の下、生徒手帳へ記入させる。（昨年度途中のアンケートでは活用率53.1%、活用率を70%以上にする。）	生徒手帳を活用できたクラスと活用しなかったクラスがある。（手帳の活用については、要検討）	1		
	3年	自己肯定感を高めるために、SHRで30秒～1分間のスピーチに取り組ませる。（日直日誌、帰りのSHR進行など生徒が主体的に取り組める内容も検討する。）	スピーチを実施したクラスと実施しなかったクラスがある。主体性を育む場面が例年に比べると少なかった。	1		
		日々の服装容儀指導を行う。	健康観察等の時間を使い、気になる生徒に声掛けの実施。就職試験後の大きな乱れはなかった。	3		
		3学年職員で連携して、校内外でのあいさつ・マナー指導をおこなう。	3学年職員間の連携が良く毎日実施できた。	4		
		1分間スピーチの毎日実施と、日直日誌指導を充実とメモの習慣化を図る。	スピーチ・日誌指導の実施はできた。メモの機会は増やしたが習慣化までにはできなかった。	2		

目標	努力事項（評価指標）	学校自己評価コメント	自己評定	学校関係者評価	理由	
(2)	教務	職員研修を企画し、関係部署との連携を図る。	職員研修が実施出来なかった	-	3	次年度に期待します。コロナ禍の中、全体的にやれることは、よくできていると思います。 自己肯定感を養う授業を大切に、将来に夢を持って欲しい。
	生指	携帯電話の校内持ち込みに伴い、使用条件や問題発生時の対処法を年間を通じて整備していく。	6月からスマホ持込実施予定だったがコロナ禍で3学期に延期。来年度からの本格導入に向けて状況を見ていきたい。	3		
	進路	教育相談部やハローワークとの連携を推進する。	3年生1学期人権教育で就職差別について実施できた。受験報告書と共に違反質問確認書類を配布し連携指導を行った。	3		
	保体	教育相談部と連携を図り、迅速かつ正確な生徒の情報を把握し支援を行う。	長期休業後にアンケートを実施するなど、例年以上に生徒の変容の早期発見に努めた。	3		
		中学校・支援学校等の関係機関と連携を図り、生徒理解・適切な支援に努める。				
	環美	命を大切にする教育を推進する。	日常的な防災教育(シラバス)と抜き打ちの訓練を継続的に行う。生徒指導部主体の「部活動単位の防災訓練」の実施ができたので良かった。 訓練に共助の要素(車椅子)を取り入れる予定だったが、実施できなかった。 職員同士の救助訓練として、本校所有の車椅子を使用し、共助訓練を行う予定であったが、実施できなかった。	2		
		自分の命は自分で守ることを再認識させる。				
		共に助け合う気持ち(共助)を防災訓練に取り入れる。				
	渉図	本校所有の救助・共助用車椅子を数台確保する。	資料や書籍を積極的にそろえ、命の教育週間(7月第1週)世界人権デー(12.10)や国際障害者デー(12.3)などに合わせて展示コーナーを設ける。	3		
	教相	人権教育の年3回実施	各学年ごとテーマを決めて、計画的に実施できた。	3		
		Good Job Week を生徒主導の方法に大きく見直す	実施方法の見直しとアンケートによる検証を行った。	3		
		行動観察(1年)の実施	コロナウイルス感染症のため、実施できなかった。	-		
		「ライフスキル(生徒理解・自己肯定感を育むための取組)」を1学年で実施する。	1学年会と連携して、計画的に実施した。	2		
	1年	他者の長所を見出す授業を2、3学期に1回LHRで行う。また、自分自身の長所を知ることで自己肯定感を養う。	2学期に他者の長所を見出し、改めて自分自身の長所を知ることで自己肯定感を養う授業を1回実施できた。	2		
		コーディネーターの授業参観や家庭訪問・面談をもとに、通級指導へ向けた説明や準備など生徒一人一人に応じた指導を行う	各クラスから候補者を選び、通級担当者と連携し、2学期後半までに候補者と担当者が複数回面談を行い通級対象生徒を選出した。2年次より開始できるよう、3学期に準備を行っていく予定である。	3		
	2年	一人一人に応じた指導を行うために、教育相談部と連携をはかり、必要に応じて拡大学年会を行う。学年会の記録を副担にも共有し、多方面から声かけができる体制を作る。	日常の学年会では、教育相談部も一緒に生徒について情報共有をした。学年の情報を副担任の先生方へ十分に共有しなかった点は改善したい。	2		
	3年	言葉遣いに気をつけ、相手を嘲笑、威嚇、攻撃するような言動は慎む。	生徒の目線になり、相手を尊重する言動ができていた。	3		
生徒の言動や表情に常にアンテナを張り、心配な生徒は、担任、教育相談につなぐ。		気になる点は、担任へ報告、相談の実施。また教育相談と対応の協議を行うことができた。	3			
(3)	生指	クラブ活動・教育振興基金の有効活用を提案する。	部顧問会で協議して提案している。	3	3	よい印象です。
		部活動生集会と未加入生集会を定期的実施する。	集会ができなかったため、プリントを準備して各部顧問による指導をおこなった。	3		
	進路	進路指導室及び進路資料室の整備に努める。	担当で資料整備を行ったことで、生徒の活用機会増加した。前々年度の企業パンフレット等は、処分時に参考用として2年生へ配布した。	3		
		日向工業進路学習の活用し充実し努める。	2学年を中心にLHRにて主な進路先や求人票の見方等を実施していただき情報提供が実施できた。	3		
	保体	環境衛生検査を適切に実施し改善を図る。	コロナ予防に必要な備品を準備し設置するなど、積極的に努めた。	3		
		定期的な安全点検を実施する。				
		毎週水曜日をリフレッシュ日とする。				
	環美	事務との連携を密にし、設備・用具の整備充実を図る。	消耗品、清掃用具の在庫を確認し、必要に応じて準備した。	3		
		学期毎に美化委員による清掃用具の点検を行う。	清掃場所ごとにアンケートを取り、清掃しやすい環境を整えることができた。			
		花壇を中心に花と緑に囲まれた潤いのある学習環境の整備に努める。	年2回の植え替えを実施した。			
		徹底したゴミの分別に努める。	ゴミの量が例年少なくなっている。今後も持ち帰り指導を徹底したい。			
	渉図	全生徒・職員プラゴミの持ち帰りをを行う。	クラスにより差があるように感じる。また、校外でのマナーが悪いので、モラルを身につけさせる指導の徹底を行いたい。	2		
		定期的に図書館に多読の生徒を掲示し、読書の啓発を行うと共に、年間多読賞の表彰を行い、表彰されることで自信を持てるようにする。	今年度は、休校により授業日数が減ったので、多読賞の途中発表は行わなかった。しかし、ライブラリーニュースで貸し出しの多いクラスの発表を行った。			
	教相	教室前面の掲示物削減など特別支援教育の視点からの学習環境改善を行う。	掲示物削減は実施できた。他の視点での取組が更に必要である。	2		
	1年	教室前方には、掲示物をせず、授業に集中しやすい環境を作る。	各クラス、アクセシブルデザインを徹底することができた。機械科1年においては、コルクボードを活用し、掲示物を移動できるように配慮されていた。	3		
	2年	学びの場としての教室の環境を整えるために、アクセシブルデザインを意識した教室内の整備を徹底する。	教室の前方は、どのクラスもすっきりと整えることができた。	3		
	3年	日々の清掃の徹底をうながす。	清掃の状況は、概ね良かった。	3		
		廊下の靴箱の上やロッカーの中身の整頓を各クラスで注意させる。	各クラス教室内の整理整頓がなされていた。	3		

2 学力養成・キャリア教育

(1) 教育課程の工夫・改善 (2) 授業改善と学力養成 (3) キャリア教育の充実

(令和2年度)

目標	努力事項(評価指標)	学校自己評価コメント	自己評価	学校関係者評価	理由	
(1)	教務	教科・学科と連携し、本校生徒の実態に即した教育課程の編成に努める。	新教育課程となる令和4年度の入学生の教育課程を決定することが出来た。	3	3.3	生徒の取組が、若干悪いようです。意識付けはなかなかできないでしょうが頑張ってください。
		課外など普通教科と協力して取り組みを充実する。	今回は、小論文や学力指導については、各クラス、学科で対応できた。	3		
	進路	業者テストなどを利用し、学力を確認し資料にする。	各学年進路マップを実施し、結果をフィードバックできた。試験結果を基にベネッセ講話を2月24日に実施した。	3		
		生徒の就職希望者内定を年内100%達成する。	学校推薦103名においては、12月28日に100%を達成。学校推薦による就職決定100%は県内No1であった。	4		
		県内就職率を60%以上にする。	県内就職内定率76.25%という結果であった。	4		
		「高卒就職専門員」と連携した地元企業への就職開拓の実施。	就職支援コーディネーターの熱心な県内企業訪問、情報収集により情報を元に円滑な進路指導ができた。	4		
	環美	防災教育は特別なことではなく、日常的に防災教育を行う。	各教科のシラバスに防災に関する内容を記載してもらい、日常的な防災教育を各教科毎に行った。	2		
		(シラバスに防災教育に関する内容を明記する。)	防災バッグ(非常時持ち出し袋)を各学科に配備した。来年度、持ち出し訓練を取り入れた。			
	教相	生徒・職員に対する予告なしの「緊急地震速報を活用した防災避難訓練」を行う。	教育課程委員会で検討中である。	2		
	1年	「通級による指導」を教育課程内実施の可能性について検討を行う。	計画の変更等あったが、週間として取り組むことができた。次年度の課題として、週間ではなく、曜日固定の継続した取り組みや、3級以上への取り組みが考えられる。	2		
	2年	漢字検定 1月28日の試験へ向け6月より実施。年間5回、漢検週間を設定し、担任団で合格に向けた取り組みを実施する。	担当の先生から口頭連絡や予定表が配布されるなど、連携はおおむね良かった。	3		
	3年	連携ミスをなくすことで生徒が板挟みにならないようにするために、資格課外と部活動の報告連絡相談を確実にを行う。	試験日程が遅くなり、面接練習に対する生徒の取組みも例年より集中できない様子が見られた。	2		
	(2)	教務	ICTの活用を促進し、職員の意識・技術を高める。	ハード面の充実に伴い、機器の活用とG suite Educationの研修を実施した。来年度更に研修を充実させたい。		
生指		始業前の挨拶を徹底することで、授業と休憩時間のメリハリをつける。	授業に集中できていない生徒については、全職員で臨機応変に対応する必要がある。	3		
進路		生徒の個性・能力等を十分に理解し、保護者や担任との連携を密にして、きめ細かな進路指導を推進する。	コロナ禍で就職試験が1ヶ月延期になったが、生徒・保護者との連携は十分に行えた。	3		
		個人及び三者面談の充実と、各学科と連携した面接指導の実施。	1学期に休校期間があり、三者面談等不十分であったため、推薦委員会後に進路変更をした生徒が出た。面接指導は、充実していた。	2		
		生徒及び家庭への進路情報の伝達と担任との連携を図る。	コロナ禍に係わらず柔軟な対応はできていた。今後更なる生徒の希望把握・指導実施が必要である。	2		
満足度調査で、本校を選んだ満足度を80%以上を維持する。		昨年度72%、今年度89%という結果で昨年度を上回る結果となった。	4			
渉図		ブラックボードを活用した広報や機会あるごとに生徒と本について会話をし、現状にあった本の購入及び紹介を行う等に取り組む、貸し出し数の10%増を目指す。	図書委員推薦本をブラックボードや展示コーナーで紹介することができた。	3		
教相		全職員による授業のアクセシブルデザイン化の取組とまとめを行う。	日工スタンダード(7項目)の生徒による授業アンケート等実施した。職員研修の中止により、職員への周知が十分できなかった。	2		
1年		数学科と連携し、つまずきの発見、学び直しを実施する。	今年度は、コロナの影響等もあり授業の中断・分散等は生じたが、授業数などの観点では学び直しを中心に充実して取り組めた。	3		
2年		基礎力診断テストを通して、自己肯定感を育むため、GTZのDゾーンの生徒数を減少させる。	入学時よりも成績が低下した生徒が多かった。原因として、入学当初から校が続き、高校での学習習慣を身につけさせることができなかった。	2		
		授業に真剣に取り組ませるために、授業研究に力を入れ、生徒が興味を持って取り組める授業内容を工夫する。	視聴覚教材など工夫し授業を実施したが、生徒に興味を持たせるのがなかなか難しい教科もあった。生徒の授業への意識をどのように高めるかが課題である。	2		
3年		朝自習・朝読書に主体的に取り組む。	副担任が交代で問題作成、多様な課題作成ができた。遅刻0の生徒も多く概ね良い取組だった。	3		
(3)		生指	各種委員会活動の充実と責任感を身に付けさせるために、できるだけ3年間同じ委員を務めさせる。	専門委員の中から委員長を選出したが、コロナ禍であまり活動できなかった。以前の生徒会総務委員が専門委員長も兼ねる形に戻す方向で検討した。	3	3
	進路	各機関と連携したキャリア教育の企画・実施。	コロナ禍ではあったが、6月に公務員・進学説明会を実施できた。	3		
	環美	災害ボランティア・地域清掃活動を推進する。	県主導の「高校生安全・防災研修」の実施が見送られた。	2		
		日常の学習が自他の命を守ることにつながることを認識させる。	各教科のシラバスによって、学習することが自他の命を守ることにつながることを今後も継続して認識させたい。			
	渉図	進路コーナーを更に充実させるため、進路指導部や学年との連携を密にし、随時進路資料の収集に努める。	進路指導部から図書館に置いた方がよい本の資料を頂いた。来年度の図書費に進路予算をつける予定。進路関係の新聞の切り抜きをまとめてSPIの問題集や面接対策の本の利用が多かった。	3		
	教相	進路指導部、3年学年団と連携し必要な支援と繋ぎを行う。	支援の必要な対象生徒、支援策を決定し、学科との情報共有を行った。継続的な実態把握や取組を行うことができなかった。	2		
	1年	事前事後指導を充実させ、積極的に企業・現場見学会等に参加し、主体的に職業観・勤労観を構築できるようにする。	各行事の中止が相次いだ、各クラスとも充実した事前事後指導を行った現場見学会を実施することができ、職業観・勤労観を培うことができた。	3		
	2年	課題研究(総合的な探求の時間)における進路研究の充実を図り、外部講師による授業、インターンシップなどを通して職業観を持たせ、2月には進路希望を明確にさせる。	課題研究の時間を使って、進路研究を行った。外部講師による講話は例年より少なかったが、各クラスの努力で進路決定への意識は高まりつつある。	3		
	3年	企業・学校調査、三者面談を行い自己決定力を育成する。	各クラス三者面談を行い進路先を決めることができた。進路推薦委員会後の受験先変更があった。	2		

3 信頼される学校づくり (1) 広報活動の充実と学校公開 (2) 危機管理の推進と適切な対応 (3) 防災教育の推進

(令和2年度)

目標	努力事項 (評価指標)	学校自己評価コメント	自己評価	学校関係者評価	理由
(1)	教務	関係部署と連携して、かわら版の工夫・改善を図る。	体験入学チラシとしてかわら版を活用した。県主催の学校CMコンクールでは入賞するなど、広報活動を充実させた。	3	就職、進学先を考えると選ばれていると思うので、日向工業の情報発信力に力を入れていくことはよいと思います。適切な対応ができていた。
		中学校での高校説明会の工夫・改善を図る。	前半は体験入学を前面に押し出し、後半はVS私立、延工、佐土原と中学校にに応じて説明を変えて対応した。QRコードを作成し、HPや学校紹介動画を閲覧しやすくした。	3	
	生指	登下校時の挨拶・交通マナーの向上を図ることで、本校生のイメージを変える。地域からのクレーム0を目指す。	特に自転車通生の交通マナーに対して地域からの苦情が増えた。クレーム0を目指して、引き続きマナー改善を呼び掛けていきたい。	2	
	進路	校内・教室掲示板の活用など進路情報の積極的提供に努める。	教室内進路情報掲示は、進路委員により差が出ていたので、定期的な指導を行いたい。	3	
		全生徒と保護者に変化していく情報を伝え、進路意識の喚起を図る。	就職支援コーディネーターの情報提供等で生徒の意識は高かった。進学・自衛隊・公務員説明会が実施できた。	3	
	保体	進路状況をホームページで発信する。	年度当初に、ホームページの更新を行った。	3	
		ほけんだよりの発行や健康管理に関する情報を発信することで、生徒一人ひとりの健康に関する意識の向上や基本的な生活習慣の確立に努める。	最新の情報伝達を行うよう日々努めたが、次年度も継続して行いたい。	3	
	環美	防災訓練を報道機関へ発信する。	本校の防災教育を広く発信するため、報道機関に投げかけ、数社の取材依頼があったが、訓練が中止となった。	3	
	渉図	PTA総会への出席率75%以上を目指す。また、PTAの各専門部会の活性化を図る。(PTA新聞の写真を充実させるなど)	今年度は、新型コロナウイルスの影響で実施できていない。	1	
		PTAの組織を学校に規模に応じたものにすると共に、生徒に直接関係しない活動の内容精選を継続する。	今年度は、新型コロナウイルスの影響で実施できていない。	1	
	教相	相談室便りの発行(年3回)	発行は1回であった。	1	
	1年	学年通信を副担任が輪番で毎学期2回以上発行し学校や生徒の状況を発信する。	1学期に3回、2学期に1回、3学期2回発行することができた。	3	
	2年	学年通信を副担任、学年所属の職員が輪番で月1回発行し、学校や生徒の状況を発信する。	学校行事が少なく、掲載内容に苦慮する時もあったが、ほぼ毎月発行できた。	3	
3年	学年通信の定期的な発行(学期2回の発行予定)	副担任が交代で作成し、多様な内容となった。コロナ禍でも学校の話題を伝えることができた。	3		
(2)	教務	文書・データ管理の徹底を図り、職員の意識を高める	テスト前に、啓発文書を配布した。	3	大変努力していると感じます。 防災意識を高める機会を与える必要がある。
	生指	日向・延岡警察署生活安全課への定期訪問を実施し、地域における本校生の実態把握に努める。	日向・延岡警察署生活安全課から定期的に情報を得ている。連携は十分に取れている。	4	
	進路	企業・大学等との情報のやり取りに努める。	コロナ禍で担当者との面談等が困難で電話対応等で連絡を取り、情報のやり取りが円滑にできた。	3	
		トラブルを防止するため、関係機関との連携を強化する。	企業や学校と連絡を適切に取り、生徒に伝達することでトラブルなく無事に試験を終えた。	3	
	保体	緊急時の連絡体制を整備し外部機関との連携を図る。	新たに、コロナに関する連絡体制の整備と全職員への周知に努めた。	3	
		AEDや担架等の点検を行う。			
	環美	学校防災の在り方、防災訓練、防災に関する情報交換を行う。	日向市防災推進課、消防本部、中村消防設備と防災訓練に関する情報交換と協力依頼を行った。しかし、訓練は実施できなかった。	2	
		(必要に応じて学校防災連絡協議会を実施する。)			
		各学科に常備した非常持ち出し袋・リュックを用いた訓練を実施する。	今年度の訓練は中止になったが、来年度の訓練で実施したい。		
	渉図	各職員室・準備室に非常持ち出し袋を常備する。	今年度は、各学科職員室への配備ができた。		
		図書選定委員会を中心に予算の執行状態の確認や、予算の執行を行う。	概ね予算通りに執行できた。	3	
	教相	「いじめ防止基本方針」の周知。	HP掲載と案内を行った。	3	
		いじめの未然防止、早期発見・早期対応に努める。	いじめ不登校対策委員会を中心に取り組んだ。	3	
1年	日向工業高校メールを有効に活用するために、加入率を100%にする。	4月の段階で100%を達成できた。	3		
2年	日向工業高校メールを適切に活用するために、加入率を100%にする。	メール加入率は100%を達成。今後は、メール発信する内容が保護者、生徒にしっかり伝わっているかの検証が必要がある。	3		
3年	日向工業高校メールの加入率100%を目指す・管理マニュアルの周知徹底	日向工業メールへの加入率は、ほぼ100%である。	3		
(3)	生指	各部で避難方法の確認と訓練を年1回以上行う。特に校外で活動を行う機会が多い部については避難場所を確認しておく。	学校休業や部活動中止などで計画や実施が難しい状況ではあったが、2月中には各部毎に実施できた。	4	3
	進路	学校・本人・受験先・保護者との連絡体制の緻密な確認。	応募前見学会、受験共に旅行計画書を提出させ連絡体制は万全を喫することができた。	3	
		ほけんだよりに等を通して、災害時の備えや感染症予防等の健康管理に関する情報提供を行う。	今年度は特に、防災だけでなく感染症に関する情報提供をほけんだよりに等を通じて行うことができた。	3	
	保健	防災に関する備品を見直し、必要な物を確保する。			
		自然災害の現状、原因、減災等について理解を深める。	今後の訓練や日常の防災教育で継続して行う必要がある。また、防災通信「Bousai Times」を発行した。	2	
	自らの安全を確保するための行動ができるようにする。	学校安全、防災教育の重要性を十分に認識させるまでに至らなかった。			
	渉図	学校、家庭、地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。	防災教育には、終わりも結果もない。実態に即した訓練を継続的に実施していきたい。		
		自然災害等の資料・写真集等を積極的にそろえ、震災の日(3.11など)に合わせて展示コーナーを設ける。	9月の防災の日に日向市のハザードマップを掲示し、展示コーナーを作った。	3	
	教相	災害時、緊急時の心のケア(アンケート等)体制を整える。	できなかった。	-	
	1年	新入生オリエンテーションで防災講話の実施後、避難経路を確認させ、防災へ意識を高める。	新入生オリエンテーションにおいて実施できた。避難訓練は中止になったが、部活動での実施等により、防災意識は高まった。	3	
	2年	実践的な自己判断の育成を図るため、年2回の防災訓練に真剣に取り組む。	新型コロナ感染症の影響で、実施できなかった。	-	
	3年	学年通信、全校集会、避難訓練時を活用する。	学年通信5回発行。学年集会7回実施。避難訓練は、コロナ禍により実施できなかった。	2	

4 働き方改革の推進 (1)マイナーチェンジによる改善

〈令和2年度〉

目標	努力事項（評価指標）	学校自己評価コメント	自己評定	学校関係者評価	理由
(1)	教務	文書保存場所の整理を行い、作業時間の短縮を図る。	文書の保存場所を業務分担表と結びつけた。マニュアルの作成も随時行っており、来年度の業務時間短縮につなげていきたい。	3	働き方改革は、難しいテーマだと思います。先生方、生徒、保護者、それぞれに無理がないようにお願いします。 総合的に本団しました。
	生指	生徒を指導する時間は、勤務時間内に開始・終了するよう計画し、実施する。	生徒の指導は勤務時間内で計画できるが、保護者召喚等は時間内の設定は難しい現状がある。	3	
		特別指導の生徒については、生指部風紀係と副担Bが協力して指導にあたる。	風紀係が計画・調整を担当し、直接的な指導は副担が行う形も含めて検討していきたい。	3	
		時間外の立ち番指導や問題行動対応については無理が無いよう十分に配慮する。	十分配慮して対応しているが、やむを得ない場合も多かった。	3	
	進路	文書保存を確実にし、作業時間の短縮を図る。	分担できるものについては、割り振りして作業できた。文書保存も各担当で確実に進めることができた。	3	
	保体	役割分担を明確にし、分業による仕事の振り分けを行う。	次年度も関係校業務分掌と連携を図り、学校全体で共通理解に努め、臨機応変に対応していきたい。	3	
		関係校業務分掌と連携を図り、学校全体で共通理解を図りながら職務に努める。			
	渉団	時間外のPTA活動について、無理がないよう配慮する。	難しい問題なので、今後も検討が必要である。	2	
	教相	役割分担を明確にする	担当内容を明確にしたことで、ある程度取り組めた。	2	
		調査やアンケートの内容精選。シンプル化。	例年通りでの実施となった。来年度に再度検討を行いたい。	-	
	1年	各行事の資料のデータ化を図る。	各行事の中止や縮小があったが、各行事の計画等については、フォルダーに集約することができた。	3	
	2年	学年団での役割分担をできるだけ校務分掌と重なる内容にし、時間短縮に努める。 一人で仕事をせず、学年団で協力する。	学年団の先生方が自分の役割に責任を持って取り組んでいただいた。	3	
3年	文書保存を確実にし、作業時間の短縮を図る。	ミライムの活用により、学年会の記録や資料など共有することができた。	3		